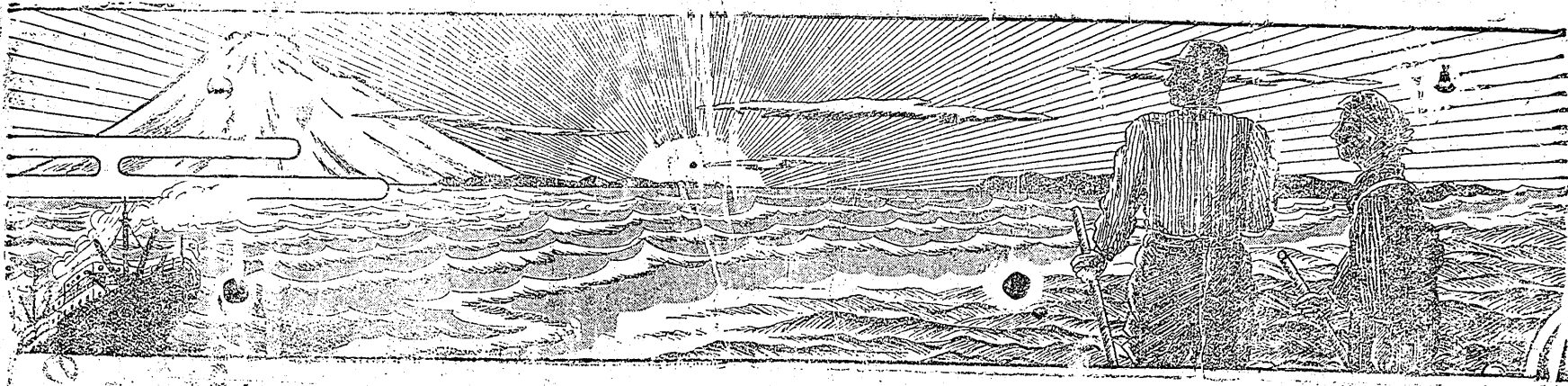




行發日一月一
(物祭日翌日祭陽日)
香五六五・八〇一第報京東



迎興亞新年

お城山の鐘、縣社の太鼓、初雞初鳴、はのはの曙の初御空、豊か昇る初日影、雨の屏風、祝の舞臺、それらの何物にも些の變りなく、非常時下、既の新年に神代に恵まれ、右難い生活の間には、本務物以來培われ、強固な精神意識を以し、一不相變の一語から明る元日精神が生れて来る。然し乍ら自然と人間とは時々刻々に變つて居る。變化は進歩であり、進歩は變化である。人は絶ゆることなき創造の仕事に従つて居る。一年を以て進化的無限軌道の一區切りと爲し、その起點が元日である以上「改まる」の一語がまた元日の本質であらばならぬ。不遇不満足的生活には「改まる」の一語が何よりな、鏡付付いた心の扉を啓く、斯くして人間のあらゆる世界に向つて光明と希望と勇氣と新生とを投げかけ、年々、歳々春は訪れて来るのである。盆中の梅花數點の春を領し、瓶裡の水仙淡黄を吐く處、非常時を忘れたる居る一醉「恍」として人生の妙趣を思ふ。前途へは面伏せ乍ら亦是れ年頭の一樂事である。
現代人は盛に何々を叫ぶ。若し或種の觀念を強調するに一定の時日を以てする事か有力であるならば此民族の精神の起元を有する古くして且つ深き元日の傳統的思想を利用することを見做すべき道理にない。而も華國悠久二千六百年の興亞の春を以て今日に於てをやである。
一年の尖端は先づ人と自然の親交、人と神との靈通より始まる。吾々が最も森嚴莊重な氣分を以て深き反省を行ひ、深き考察を拂ひ、深き感激を寄する日として過去何千年来元日なるものが最も有効なる役目を演じて來たのである。此意味に於て元日は起原回復の日であり、歴史尊重の日である。家庭的には家祖を、國家的には國祖を回顧し、各自精神の故郷に向つて歸去來分を賦する日ではある。最も新らしい感じを以て最も古き觀念に振り廻る日である。之を以て日常見馴れ聞き馴れ行ひ馴れて居る極めて平凡な事柄に對して一種特別な神聖莊嚴の意味をすら附與する。時間と空間とを超越して現代と太古と人と神とが渾然として歸一する。少くも元日一日、幸福と永遠との觀念が力強く人生を支配する。此等の觀念が「不相關」の一語となつて、年頭第一の祝辭となり、雲支爾密の聖業、贊、對する國民の心構へとなるのである。之を是れ元日に還ると云ふも可なり、一日にしてそれよりも尙ほ皇軍の武運長久を祈るべき一日、終に併進芭蕉をして「ああ春春、大なる哉、春と云ふ」と歌はしめしめのである。國家の大事は云ふも更なり、平として石城郡とし、爲すべき多くを課されて居る昭和十五年こそは極めて輝かし、年でも反面に最大限度の善戰健勝を要する重大の時代である事を銘記せねばならぬ。筆を洗つて敢て一言する。

昭和十五年 元旦

磐城新聞社

皇紀二千六百年新春

- 島田忠夫
○東の日出づる國のさだまりてより
小松ぎもなし皇紀二千六百年
○國を興げたたかひて止まず支那大陸に光輝布くかも榮えゆく年
○大君の榮ゆる春に還へらく上天垂らしませたまひのち
○皇紀二千六百年の新春にあふ雪山や脚ながらなる清
○暖かみのわれのころは遣ひがたき年にしあひておほに畏む
○ことはぎて迎ふる御世のにひ春にたたくかふ兵を豈わすれや

野梅

- いささかの風あれば鳴る枯葉が野梅の枝に揺れつし
○はつとつと花つくる梅枯れがれし葉取りはへる煙のかたへに
○春はやき梅惜しむ立つこの雪はかつて來しと思ふ然にあらじか
○野のへら風吹くさぐる梅の枝みな低き枝に花もさぐるかも
○初春のなごむ日なかをもどれば汗ばめり野のしら梅のな

戦時新春

- 佐々木顯
○たがひの年を迎へてはゆみなきこの御世をきあれといゆる
○霜凍る廣野をまもる皇軍の日に夜たゆまぬまをすらをも

勅題「迎春新世」

- 東京市 山崎華生
○もよおせに一度の初日あろがみて皇軍の幸を仰に祈れり
○世界無二脚の幸を寄さす君萬歳を神に祈りぬ
○二千と六百年の春迎へ添ひなごに涙ばる
○かぐはしく芽出度き春を寄きて祈年の祭りにごぞか
○もよおせに一度の春に吾れ逢ひて感謝感激涙すばかり

新春雑章

- 第一時 秋 萩
○過ぎ行ける日を感謝しつ新なる歳をことほぎ雑煮いたゞく
○春はまだ浅くしあれど梅の花一輪二輪咲き出でにけり
○わが庭のにはの木群に朝々を数息の来りては鳴く
○早明けの鳥鳴き初野に出で、大

野立しける

- 朝まだし柏手たかく初詣で
○年明けり、早明け鳥鳴き波る
○元旦に氣ふふもななくなりぬ
○袖家にも賀状二三は有りけり
○巷路の風に吹かれて神樂笛
戦時新春
栗山耕三郎
○暗きより神に頼づくこの朝も祈りは遣し皇軍のうへ(元朝)
○雪もよふ空鳴らし行く飛行機を廢蘇の手を止めては聴けり
○おほろかり昏みそめかる元日の巷を走る戦捷の號外

与春

- 橋本敏夫
○濃葉松の新芽の苞を降らしつつ燦と陽の色染淡し
○白梅の枝組に霧ふ陽の光ぬかる斑雪の風明くる
○あのあたりが八合目小屋と人指せと雪なだれの跡を我は見るのみ
○わかき網を時に打つ音ひびきつ(溝へ静けし潮の面黒し)
○富士の嶺に雪覆立たなびけり次ぎて立ち、つ空にまざる
○昨日の朝したか降りし雪とふを熔岩の上で掻き採りて食ふ
○爲に登りしめてかかはらず遊鳩二つ鳴り高し
○山口に降り來し小鳥まだ去らず狹田の山葵の芽にあさななり
○大郎坊の雪装しるく輝かし天渡る陽の昏れ入らむとす
○宮士の影遠く大きく傾きて裾原をとみに昏れしむとす

新春詠

- 野地 曠二
○都會より歸り來るや雪かつぎしづまる山のかくもしたし
○雪うすくつもれるうへに月しろの光は照らふ春はまだ浅し
○春めくと雨ひれるははははにてまじけむくみそれ降りくる
○庭さきの笹の秀つ枝のさゆれのみ雪降りくらし夕たらしむとす
○みちたてねむりたらしめし朝あけのすがすがしさに雲の山せまりぬ

元日

- 栗原 潔子
○須臾にして夕づくものを年明けしひと日こそせむもののかひなき
○くもり空つひにうすき夕映のぬ外にしげく霞にて追羽根のおど
○夕まけて外につき鏡よ羽根おとしみるに牙ゆれしはしが時を

磐城炭礦株式會社

所長 菅原萬治郎
副所長 濱崎善三郎

入山採炭株式會社

取締役所長 大貫經次
事務部長 小山田滋

古河業好間礦業所

所長 下野十期
係長 安孫子虎雄

不動澤炭礦

石城郡内郷村
日本水素工業株式會社
小名濱工場
金原武

日曹礦業株式會社

石城郡赤井村
常務 磐出張所
所長 新村右一郎
副所長 鳥居大惠
電話一八九番 七八番

日曹赤井炭礦

石城郡赤井村
日曹 常盤炭礦
日曹 福島炭礦

日曹小田炭礦

石城郡好間村
日曹 小田炭礦
電話一三二番

日曹平炭礦

石城郡好間村
日曹 平炭礦
電話四八二番

日曹赤井窯業工場

石城郡赤井村

入立國勞動自治會

會長 松繁庄一

川瀬幸治

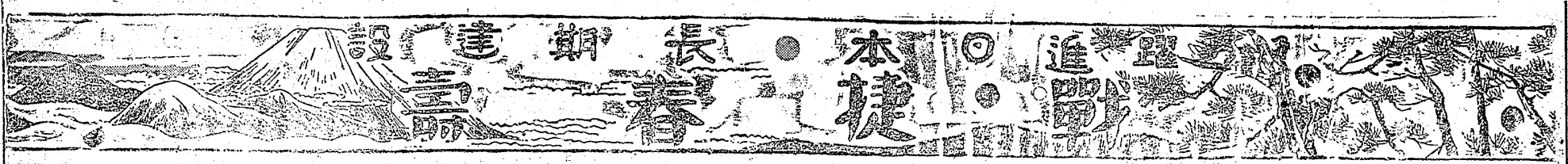
石城郡赤井村

戸部炭礦

宮崎炭礦所
小野田炭礦所
戸部 光衛

大濱炭礦

所長 蘆川正信
山口縣小野田町刈屋



幼き日のお正月 追憶 三部曲 赤井 嶽 男

神楽ふら 笛太鼓の陽気な音に... 新機場の湯拂ひにま新しい春を呼び立てて神楽が...

一人前の役目を果すべくからその不真面目をたしな父の放浪時代を思い出した...

迎年祈世 先がけの... 龍年の光り波間に見ゆるかな 國安かれと祈る...

- 平市大町 保証平果菜商業組合... 平市十五丁目 平病院... 平市公園下 桑原柔道...

- 常盤證券株式會社... 磐城無盡株式會社... 野村生命平支部... 大平屋藥舖...

- 平市風坂 渡邊小児科醫院... 平市三丁目 川村浩... 平市三丁目 君の家... 平市三丁目 吉伴製作所...

- 平市三丁目 三瓶電機商店製作部... 平市三丁目 廣瀬支店... 平市三丁目 井坂産科婦人科醫院... 平市三丁目 藤森商會...

謹賀新年

茨城縣多賀郡南中郷村
南中郷 炭礦
礦主 尾藤憲祐

大倉無煙炭の目炭礦
礦主 川波芳太郎
茨城縣多賀郡華川村

福島縣平市播磨小路一番地
堀江工業株式會社
取締役社長 鈴木唯治
専務取締役 堀江新太郎
取締役支配人 長谷川常吉

小田 吉次

宮城銀行
専務取締役 山田勇太郎
仙台市元寺小路

金 成 通

木村 清治

鈴木辰三郎

阿部政右衛門

植田水力電氣株式會社

柏原 英夫
福島市谷地五

石城郡銀行組合

釜屋 商店
貴族院議員 諸橋久太郎

内郷村白水(經營)
神奈川炭礦
栃窪 礦業所
矢郷 倉藏

平看護婦會
清野 千三

石城郡内各學校長會

高久病院長
高 久 忠

平電力株式會社

磐東銀行 金成金三
植田町

平市田町
鈴木齒科醫院
鈴木 正男

鈴木齒科醫院
鈴木 喜政

植田町長
古川 傳一

磐城建物株式會社
取締役 井上貞治郎
支配人

縣會議員 小野晋平
小名濱町長

平市長 青沼鋒太郎

七十七銀行平支店
支店長 佐々木經次
次長 佐々木賢七

磐城水産工業株式會社
小野 晋平
福尾 伊太郎

福好工業合資會社
強口 唯七郎

平市會議長
野崎 滿藏

庶民金庫平代理店
平 庶民 金庫

成瀬 巴三
植田町

平藝妓屋組合

平市會議員 高橋龜松

赤堀 信平
東京市澁野川區澁野川町六九二

森合齒科醫院
植田町 森合 芳男

前田 醫院
前田 清美
植田町

山崎 登

高久村役場
村長 鈴木 正
書記 鈴木 梅
同 箱 谷 正
同 箱 谷 梅
技術員 永山 源三

豐間村役場
村長 山野 茂五郎
收入役 鈴木 晴雄
書記 鈴木 木一
同 鈴木 木一
書記 鈴木 盛二

片倉磐城製糸株式會社

下小川役場
村長 柴崎 佐之吉
外 吏員 一同

湯本出張所
福島無盡金庫
平土木監督所長

須藤 清藏

平職業紹介所
所長 立澤 高元
外 所員 一同

自動車協會平支部

平稅務出張所
丹野才治郎 鈴木菊彌
國分七郎 藤谷長徳
山下柳司

安島 重三郎
山田 村

平市役所
伊藤 源次
西野 米次
酒井 治郎
増田 忠助

江名町役場
外 吏員 一同

江名信用販賣利用組合
福島縣石城郡江名町大字中之作字川岸三
保證責任

大床 石崎 幸一
平市田町

馬目 玉彌
平市丸玉名會社
電話 四五二番

大日本電力株式會社
電力電燈瓦斯
平 事務 所
電話一五四番 七四六番 七四七番

好間村會議員
役場吏員一同

御料理 越乃家
平市二丁目

平市寫眞師會

平陽女學校
酒井 直次

石城郡町村長會
平市田町五

織田材木店
天井板、床柱
建築用材
電話四六〇番

湯本町料理屋組合
湯本 町
比佐 榮一

內郷村長 沼田濱之助

温泉 山形屋
旅館 鈴木 康平

江名町役場
町長 作山 一枝
外 吏員 一同

富國徵兵保險相互會社
磐城事務所主任 長瀬富彌
米 監 督 所 有賀重森
平 監 督 所 有賀重森
平市木町電話三三一
平市播磨小路

湯本町料理屋組合

大一屋商店
明治生命保險代理店 電話一三番
明治火災保險平南代理店

御料理 八千代
平市新田町 電話三七五番

海軍工廠御用達
合資平鋼鐵機械商會
代表社員 井尻 七三郎
平市新治町九(電話五三三番)

內郷村信用組合
理事 山崎庫太郎

好間小學校
校長 吉田庄太郎
外職員 一同

山崎佐市郎
好間鐵道株式會社
取締役 支配人

大同通信社
東京市銀座西六丁目
喪中 二付欠禮仕り候
平市立町八七

佐藤 榮吉

喪中 二付欠禮仕り候
松ヶ岡公園内

とさわ亭
電話二二六番